

闇を照らす光を迎えて

大学宗教主任

八木 隆之



スポーツ観戦の好きな人は、国際試合で日本代表が期待していたほど勝ち進むことができず、落胆したことがきつとあることでしょう。聖書の世界で古代イスラエルの人々が経験した落胆も、スケールは大分違いますが本質的にはそれと共通したことでした。彼らは神から特別な約束を受けており、神が彼らを特別な民として選んだことを信じていました。「あなたがたは世界中の祝福の基となる」、「すべての民族があなたがたを通して祝福される」というものです。彼らは、神の選ばれし民としての使命を抱き、世界中に神の祝福をもたらすために存在していたのです。

ところが、時間が経つにつれ、繁栄の時代を経て、イスラエルは衰退の歴史をたどることになります。それは、彼らは神に対する信仰を失い、他の神々を拝むようになったからです。その結果、国は南北に分裂してしまい、北王国イスラエルがアッシリアに滅ぼされ、南王国ユダはバビロンに滅ぼされ、栄光の時代は過去のものとなってしまいます。彼らは、神の計画がどこに行ってしまったのかと失望と落胆にさいなまれることになります。

この失望と落胆の経験がイザヤ書9章が描いているイスラエルの人々の置かれていた状況です。9章1節によると彼らは「闇の中」を歩んでいたと言われますし、「死の影の地」に住んでいたとあります。その直前の箇所にも、どれだけその闇が深かったか、ということが描かれています。8章22節には「地を見渡すと、見よ、苦難と闇 苦悩に満ちた暗

一人のみどりごが私たちのために生まれた。
一人の男の子が私たちに与えられた。

イザヤ書 9章5節

黒、そして追放の暗闇。」とあります。彼らの状況がどれほど深い闇に覆われていたかを想像することができます。

しかし、そのような深い闇の中で一筋の光が現れました。それが有名なメシヤ預言として知られるこの箇所メッセージです。9章1節にあるように、「闇の中を歩んでいた民は大いなる光を見」、彼らの上に「光が輝いた」というのです。その光とは何だったのでしょうか。5節は「一人のみどりごが私たちのために生まれた。一人の男の子が私たちに与えられた」と続きます。ここで「男の子」と訳されている言葉は、英語版の聖書ですと「息子」(a son)と訳されています。つまり、やがて生まれるお方こそが神の御子であることを暗示する言葉なのです。言い換えれば、この将来の男の子の誕生を暗示する言葉が、御子イエス・キリストが暗闇に光をもたらす存在であることを語っているのです。

この預言のことばがイザヤを通して語られてから、現実となるまでに約700年という歳月がかかりました。それでも、先ほどのイザヤの預言は既に実現したかのように記されています。そのみどりごは既に「生まれた」のであり、男の子は既に「与えられた」というのです。これは、神の預言が確実であることを示す表現だと言われています。いくら何世紀にわたる時間の隔たりがあろうとも、神の計画は確実に遂行されるからです。

さて、御子イエス・キリストがお生まれになった初めのクリスマスの出来事から2000年以上の年月が経ちました。今も私たちの周りでは暗闇が存在し、私たちの社会、心のうち、共同体などさまざまな形で現れていると言えるでしょう。しかし、そうした闇がどれほど深くても、御子キリストは今もなお生きておられ、私たちが心を開いて祈る時、私たちの闇を照らしてください。このクリスマス、この御子キリストに闇を照らしていただく時として過ごしませんか。